

2009. 9. 19

近代・現代の名曲・佳曲を集めて

プログラム

ロシアの名指揮者スヴェトラノフは作曲家としても多くの作品を残していますが、オイストラフが亡くなった1974年に作曲された「詩曲」はその思いを切々と歌い上げた現代作品とは思えない美しさに満ちたロマンティックな佳曲です。エストニアの作曲家ペルトの「フラトレス」は単純な音楽進行にも関わらず、清楚で透明感あふれる響きは音楽の清涼剤と言っても良いかも知れません。武満徹は21曲の歌曲を残していますが、従来の武満作品とはひと味違う親しみやすい一面を発見することが出来ます。これらを挟んでストラヴィンスキーの名曲「ペトルーシュカ」は管弦楽版とピアノによる編曲版の聴き比べ、そしてオルフの名作「カルミナ・ブラーナ」と20世紀に生まれた傑作シンフォニー、ショスタコーヴィチの交響曲第5番というプログラムは近代・現代の作品はちょっと苦手という方にも楽しんでいただけたらと思います。

イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882~1971):
舞踊音楽“ペトルーシュカ”(1947年版)から

佐渡 裕指揮/パリ管弦楽団
(2003.4.25 モガドル劇場でのLive)

舞踊音楽“ペトルーシュカ”からの3つの楽章 ~ 抜粋

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)
(1990.9.29 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

アルヴォ・ペルト (1935~):
弦楽合奏と打楽器のための“フラトレス”(1977)

ネーメ・ヤルヴィ指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1992.10.24 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

カール・オルフ (1895~1982):
世俗カンタータ“カルミナ・ブラーナ” ~ 抜粋

キャスリーン・バトル (ソプラノ)/フランク・ロパード (テノール)/トーマス・アレン (バリトン)
小澤征爾指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団/晋友会合唱団
(1989.12.31 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

エフゲニ・スヴェトラノフ (1928~2003):
ヴァイオリンと管弦楽のための詩曲“ダヴィッド・オイストラフの思い出に”(1974)

加藤知子 (ヴァイオリン)
エフゲニ・スヴェトラノフ指揮/NHK交響楽団
(1999.2.26 NHKホールでのLive)

武満 徹 (1930~1996):
歌曲“島へ”(井沢 満作詞)/歌曲“死んだ男の残したものは”(谷川俊太郎作詞)

林 美智子 (メゾ・ソプラノ)/河原忠之 (ピアノ)
(2007.6.27 紀尾井ホールでのLive)

ドミトリ・ショスタコーヴィチ (1906~1975):
交響曲第5番ニ短調op.47 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章から、第4楽章

マイケル・ティルソン=トーマス指揮/サンフランシスコ交響楽団
(2007.9.1 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)